2027 年度

岐阜県総合医療センター
内科専門研修プログラム

Gifu Prefectural General Medical Center

岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム

研修期間：3 年間（基幹施設 1 年間以上、連携施設 1 年間以上）

１. 理念・基本方針・使命

1) 理念

本プログラムの理念は、内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な内科領域全般の診療能力を修得することです。内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力であり、また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して、可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力を意味します。

2) 基本方針

(1) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

(2) 本プログラムでは，岐阜県の中心的な急性期病院であるとともに地域医療の支援病院としての役割も担う岐阜県総合医療センターを基幹施設として、岐阜県および近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで実践的な医療も行えるように研修を行い、地域の実情に合わせた内科領域の医療を実践できる診療医を育成します。同時に、基本的臨床能力獲得後は、臓器別の内科系subspecialty 分野における実践的で高度な医療を行うための知識や技術を獲得し、総合内科的視点をもったsubspecialistの育成を目指します。

(3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

(4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

(5) 救急医療の研修を通じて、広い分野に及んで、軽症から重症例まで様々な救急症例に対応できる内科系救急医療のエキスパートを養成します。

3) 基幹施設としての岐阜県総合医療センターの使命

(1) 岐阜県総合医療センターは岐阜市を含む岐阜地区での唯一の救命救急センターを運営している病院であり豊富な救急症例の経験が可能です。当院では豊富な症例を背景に

救急の現場で専攻医をトレーニングし、岐阜県の内科系救急医療に貢献できる医師を育成する任務があります。

(2) 岐阜県総合医療センターは従来岐阜県立下呂温泉病院を始めとして岐阜県内の多くの病院に医師を派遣し地域医療の維持・促進に貢献してきました。平成29年度からの新たな専門医制度では、専門研修プログラムが地域医療のレベルを低下させるものであってはならないとされていますが、岐阜県総合医療センターも専攻医の地域医療現場での研修を通じて地域の医療や保健活動に貢献するとともに、地域医療を担える医師の育成に努めます。

(3) 岐阜県総合医療センターが認定されている医療機関群Ⅱ群施設は大学病院本院に準じた病院とされており、若手医師の教育も重要な責務の一つです。従来のように大学病院からの医師派遣は期待できない状況の中、岐阜県総合医療センターは、特に救急医療や当センター独自で行っている高度先端医療を通じて、医師を教育・育成する立場にあります。

２．特性

1) 本プログラムは，岐阜県の中心的な急性期病院である岐阜県総合医療センターを基幹施設として先端医療を学ぶとともに、近隣医療圏にある連携施設で地域の実情に合わせた実践的な医療も行うことを目標に作成されています。3年間の研修期間のうち、基幹施設で1年以上、連携施設で1年以上の研修を行うことを原則とします。

2) 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景、療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。専攻医の教育は、スタッフから研修医までが一体となった屋根瓦方式で行います。

3) 基幹施設である岐阜県総合医療センターは、岐阜県の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核でもあります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、common diseaseの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

4) 専門研修3年目は基幹施設である岐阜県総合医療センターでの研修を原則としますが、研修診療科は自由選択とします。複数の診療科の選択も可能としますので、早くからsubspecialtyを決めてその分野での向上を図りたい専攻医のみではなく、内科領域全般

における十分な研修を通じて総合診療医を目指す専攻医にも対応可能なプログラムです。

３．GIO（一般目標）

「岐阜県総合医療センター研修の理念に則り、総合内科のあらゆる臨床問題に対応できるgeneralな知識・技術を養うとともに、高い倫理観とプロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を実践する態度を身につける。」

４．SBOs（個別行動目標）

1) 基本姿勢・態度

3年間の研修を通じて以下の姿勢・態度を身につけます。

(1) 他の職種のメンバーとの良好な人間関係を築き、質の高いチーム医療が実践できる。

(2) インフォームドコンセントの本質的な姿勢を身につけ、患者および家族との信頼関係を確立できる。

(3) 各種ガイドラインに精通し、EBM（evidence-based medicine）を実践できる。

(4) 自らが知り得た貴重な知見をカンファレンスや学術集会で積極的に発信することができる。

(5) 地域医療について理解し実践できる。

(6) 手技のリスクを把握し、常に安全に手技を遂行するための方策を考えることができる。

2) 専門知識の獲得

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されているこれらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

3) 専門技能の修得

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のsubspecialty専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4) 症例の経験および報告

専攻医3年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群以上、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。

5) リサーチマインドの養成

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたって行っていく際に不可欠となります。以下の(1)から(5)のような基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢の涵養を目指します。

(1)患者から学ぶという姿勢を基本とします。
(2)科学的な根拠に基づいた診断，治療を行います（EBM）。
(3)最新の知識、技能を常にアップデートします（生涯学習）。
(4)診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行います。
(5)症例報告を通じて深い洞察力を磨きます。

6) 学術活動

本プログラムにおいて専攻医は、基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

(1)内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須)。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
(2)経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
(3)臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
(4)内科学に通じる基礎研究を行います。

上記(1)から(4)を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。また、専攻医は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を 2 件以上行います。

7) 教育活動

初期研修医あるいは医学部学生の指導、後輩専攻医の指導、メディカルスタッフの指導を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

５．LS（方略）

1）年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス（別表１）

○専門研修（専攻医）1年:

- 経験すべき症例：
  「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、少なくとも20疾患群以上、60症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- 病歴要約：
  専門研修修了に必要な病歴要約を10症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。
- 技能：
  研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができます。
- 態度：
  専攻医自身の自己評価と指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2年:

- 経験すべき症例：
  「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、通算で少なくとも45疾患群以上、120症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
- 病歴要約：
  専門研修修了に必要な29症例の病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を終了します。
- 技能：
  研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができます。
- 態度：
  専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年:

- 経験すべき症例：
  主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70 疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上（外来症例は1 割まで含むことができる）を経験しなければなりません。専攻医として適切な経験と知識の修得がなされたことを指導医が確認します。
- 病歴要約：
  既に専門研修2年次までに登録を終えた29症例の病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- 技能：
  内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- 態度：
  専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また，内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約29症例の受理と、少なくとも70疾患群中の56疾患群以上で計160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システムにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。岐阜県総合医療センター施設群内科専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にsubspecialty領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

2）臨床現場での学習

(1) 広範な内科領域を70疾患群に分類し、それぞれに提示されている疾患を主担当医として横断的に順次経験することによって専門医に必要な知識・技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

(2) 内科専攻医は、主担当医として、入院から退院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景、療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
(3) 各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得るとともに、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
(4) 初診を含む外来の担当医として経験を積みます。
(5) 内科領域の救急診療の経験を、外来あるいは当直で積みます。
※基幹施設である岐阜県総合医療センターでの週間スケジュールの例を別表2に示します。

3) 臨床現場を離れた学習

1)内科領域の救急対応、2)最新のエビデンスや病態理解、治療法の理解、3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4)医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5)専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて，以下の方法で研鑽します。

(1) 定期的に開催する各診療科での抄読会・症例検討会
(2) 定期的に開催する関係診療科との症例検討会
(3) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
※内科専攻医は年に各2回以上受講します。
(4) CPC（基幹施設2014年度実績10回）
(5) 研修施設群合同カンファレンス
(6) 地域医療機関参加型のカンファレンス
(7) JMECC受講
※内科専攻医は必ず専門研修2年までに1回受講します。
(8) 内科系学術集会

4) 自己学習

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルをA（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、 B（経験は少数例だが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、また は判定できる）、 C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、 症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)、B（間接的に経験している、実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、内科系学会が行っているセミナーのDVD やオンデマンドの配信、日本内科学会雑誌のセルフトレーニング問題や、日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題を活用して学習します。

5) 地域医療に関する研修

内科専門研修では、人口集中地域か過疎地域かを問わず、それぞれの地域の医療の中核として病病・病診連携を担う基幹施設における研修と、地域住民に密着して病病連携や病診連携を依頼する立場でもある連携施設における研修とを行うことによって、地域医療を幅広く研修することが特徴です。これによって専門研修の制度開始による医師の都市部大病院偏在といった負の影響を回避しつつ、専門研修の質を高めることができるので、地域のニーズに応えることができます。

地域医療研修の質を保証するために、専攻医が基幹施設を、あるいは指導医が連携施設を訪問するなど、専攻医と指導医との間で直接的な指導を行う体制を構築します。また、岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、各施設の研修委員会への指導権限を有しており、指導体制が十分でないと判断されるときには、施設の研修委員会や各指導医へ助言や指導を行います。

6) 研修施設

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。

基幹施設である岐阜県総合医療センターは、岐阜医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり、common disease の経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

一方、連携施設は、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応して、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、①高次機能・専門病院である岐阜大学医学部附属病院・愛知医科大学付属病院・長良医療センター、②地域基幹病院である岐阜市民病院・中濃厚生病院・高山赤十字病院・岐阜赤十字病院・松波総合病院、中部国際医療センターおよび③地域医療密着型病院である県立下呂温泉病院・郡上市民病院・市立恵那病院・美濃市立美濃病院・西濃厚生病院・各務原リハビリテーション病院・河村病院・下呂市立金山病院・飛騨市民病院で構成しています。

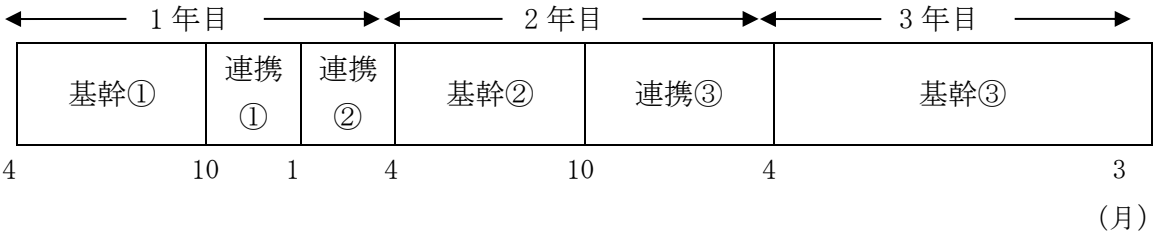
高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では岐阜県総合医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

内科専門研修 1 年目、2 年目の 2 年間の研修の内訳は、岐阜県総合医療センターで通算 1 年間、連携施設で通算 1 年間とします。
通算 1 年間の連携施設での研修の内訳は、
(1) 県立下呂温泉病院で 3 ヶ月（1 年目）
(2) 中濃厚生病院、高山赤十字病院、郡上市民病院、市立恵那病院、美濃市立美濃病院、西濃厚生病院、各務原リハビリテーション病院、河村病院、下呂市立金山病院、県立下呂温泉病院、松波病院、中部国際医療センター、飛騨市民病院のうち、1 施設で 3 ヶ月（1 年目または 2 年目）
(3) (2)に挙げた 13 施設、および岐阜大学医学部附属病院、愛知医科大学附属病院、岐阜市民病院、岐阜赤十字病院、長良医療センターのうち、1 施設で 6 ヶ月または 2 施設で各 3 ヶ月（1 年目または 2 年目）
とします。
専門研修3年目は、基幹施設である岐阜県総合医療センターでのsubspecialty領域を中心とした研修を原則としますが、内科領域の幅広い研修の希望や不足している症例登録や病歴要約作成にも対応できるように、研修診療科の選択においては複数科も可能とし、専攻医の希望を尊重しつつ、内科専門研修プログラム管理委員会で調整し決定します。
また、希望があれば3年目を連携施設で研修することも可能とします。

岐阜県総合医療センター内科専門研修カリキュラム（例）



基幹①および基幹②：岐阜県総合医療センター（各々 6 ヶ月 ）
基幹③：岐阜県総合医療センターでの subspecialty 領域を中心とした研修（12 ヶ月）
連携①：県立下呂温泉病院（3 ヶ月）
連携②：中濃厚生病院、高山赤十字病院、郡上市民病院、市立恵那病院、美濃市立美濃病院、西濃厚生病院、各務原リハビリテーション病院、河村病院、下呂市立金山病院、県立下呂温泉病院、松波病院、中部国際医療センター、飛騨市民病院のうち、1 施設（3 ヶ月）
連携③：連携②に挙げた 13 施設、および岐阜大学医学部附属病院、愛知医科大学付属病院、岐阜市民病院、岐阜赤十字病院、長良医療センターのうち、1 施設（6 ヶ月）または 2 施設（各 3 ヶ月）

7) 研修実績および評価を記録し蓄積するシステム

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて，以下をweb ベースで日時を含めて記録します。

(1) 専攻医は全70疾患群の経験と200症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低56疾患群以上160症例以上の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

(2) 専攻医による逆評価を入力して記録します。

(3) 全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。

(4) 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。

(5) 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

６．EV（評価）

1) 評価の方法とシステム

(1) 専攻医はweb にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録し、指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

(2) 年に複数回、自己評価、指導医による評価、ならびにメディカルスタッフによる360度評価を行い、その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、担当指導医によって専攻医にフィードバックを行って、改善を促します。

(3) 専攻医は、専門研修2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(4) 施設の研修委員会は年に複数回、プログラム管理委員会は年に1回以上、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、履修状況を確認して適切な助言を行います。必要に応じて専攻医の研修中プログラムの修整を行います。

2) 評価項目・基準と時期

(1) 担当指導医が日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、症例経験と病歴要約の指導と評価および承認を行います。専攻医は、1 年目専門研修終了時にカリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群以上を経験するとともに、10症例以上の病歴要約の記載を行い、登録します。2年目専門研修終了時には、70疾患群のうち45疾患群以上の経験と病歴要約計29症例の記載と登録が行われるようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群以上の経験の登録が修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、指導医が評価・承認します。このように各年次の研修進行状況を管理し、進行状況に遅れがある場合には、担当指導医と専攻医とが面談の後、施設の研修委員会とプログラム管理委員会とで検討を行います。

(2) 内科領域の臓器別subspecialty分野をローテイション研修する場合には、当該領域で直接指導を行う指導医がそのローテイション研修終了時に、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて指導医による内科専攻医評価を行い、研修態度や全人的医療の実践をはじめとした医療者としての態度の評価とフィードバックとを行います。

(3) メディカルスタッフによる360度評価は年に複数回行ってフィードバックを行います。

3) 評価の責任者

内科領域の分野のローテイションでは担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに岐阜県総合医療センタープログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

4) 多職種評価

評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種により評価します。評価は無記名方式で、統括責任者が各施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、評価結果をもとに担当指導医が形成的にフィードバックを行います。改善状況を確認し形成的な評価とするために1年間に複数回の評価を行います（1年間に複数の施設に在籍する場合には、各施設で行います）。これらの評価を参考に、修了判定時に社会人である医師としての適性を判断します。

5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。なお、「岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム　専攻医研修マニュアル」と「岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム　指導医マニュアル」を別に示します。

7．専攻医の募集と採用

1）専攻医受入数

下記1)～7)により、岐阜県総合医療センター専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年10名とします。

(1) これまでの岐阜県総合医療センターの実績では、内科系診療科で勤務する後期研修医は、1学年3～6名程度です。

(2) 剖検数は2023年度 6体、2024年度 8体です。

(3) 下記の表に示す通り、1学年10名に対し十分な症例を経験可能です。

表．岐阜県総合医療センター診療科別診療実績

2024年度実績	入院実患者数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
消化器内科	1,758	32,976
循環器内科	2,068	27,895
糖尿病・内分泌内科	196	15,786
腎臓内科	287	5,285
呼吸器内科	1,089	20,399
脳神経内科	451	11,133
血液内科	290	11,097
総合診療科・内科	93	19,769

(4) 連携施設には、高次機能・専門病院3施設、地域基幹病院6施設および地域医療密着型病院9施設、計18施設あり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能であると同時に、幅広い領域の症例を経験できます。

(5) 1学年10名までの専攻医であれば、専攻医3年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも56疾患群以上、160症例以上の診療経験は達成可能です。

2）専攻医の募集と採用の手順

本プログラム管理委員会は、website での公表や説明会などを行い内科専攻医を募集します。応募者に対して書類選考および面接を行い、岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システムにて登録を行います。

８.内科専門研修の修了、休止、プログラム移動

1) 修了要件

指導医は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し、当該専攻医が下記の修了要件を充足していることを岐阜県総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会が確認後、研修期間修了約1ヶ月前に岐阜県総合医療センタープログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が最終修了判定を行います。

(1) 主担当医としてカリキュラムに定める全70疾患群を経験し、通算で最低56 疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）の経験とその研修内容の日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録（各疾患領域は50% 以上の疾患群での経験が必要です）

(2) 29症例の病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（accept）

(3) 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いたメディカルスタッフによる360度評価と指導医による評価に基づいた、医師として適性であることの判定

(4) 所定の2編の学会発表または論文発表

(5) JMECC受講

(6) プログラムで定める講習会受講

2) 休止、プログラム移動

(1) やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を登録することによりこれまでの研修内容が可視化され、岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会がその継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を可能とします。

(2) 他の内科専門研修プログラムから岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会が行います。

(3) 疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしていれば、休職期間が４ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。

(4) 短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とする）を行なうことによって、研修実績に加算します。
(5) 留学期間は，原則として研修期間として認めません。

９．専攻医の就業環境

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準・就業環境に基づき就業します。専攻医および指導医は各研修施設の労働時間、当直回数、給与などの労働条件に対する評価を行い、その内容を基に岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が、適切に改善を図ります。

基幹施設である岐阜県総合医療センターの整備状況：
(1) 自己学習に必要な図書や教材、インターネットの環境が整備されています。
(2) 適切な労務環境が保障されています。
(3) メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されています。
(4) 院内にハラスメント委員会が整備されています。
(5) 女性専攻医が安心して勤務できるような女性専用の当直室や休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室等が整備されています。
(6) 敷地内に院内保育施設があり利用可能です。
(7) 職員専用の寄宿舎が整備されています。

10. 研修プログラムの管理と運営、および評価と改善

1) 岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
(1) プログラム管理委員会
基幹施設である岐阜県総合医療センターに、プログラムと当該プログラムに属するすべての内科専攻医の研修を責任をもって管理するプログラム管理委員会を置き、プログラム統括責任者と副プログラム責任者（ともに日本内科学会指導医）を置きます。プログラム管理委員会は、プログラムの作成と改善および専攻医の採用と修了判定を行うとともに、各施設の研修委員会への指導権限を有し同委員会における各専攻医の進達状況の把握、問題点の抽出、解決、および各指導医への助言や指導の最終責任を負います。指導者講習会の開催や連携施設での実施が困難な講習会（JMECCやCPCなど）の開催も担います。
プログラム統括責任者は、プログラムの適切な運営・進化の責任を負います。

プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者、副プログラム責任者、岐阜県総合医療センター各内科系診療科部長、各連携施設の責任担当者、事務局担当者で構成されます。プログラム管理委員会の構成員、責務、権限などは、別に作成されるプログラム管理委員会規約により明確化されます。

(2) 内科専門研修委員会

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹施設である岐阜県総合医療センターおよび各連携施設において当該施設にて行う専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し、委員長（日本内科学会指導医）を置きます。委員長は上部委員会である岐阜県総合医療センター内科専門プログラム管理委員会の委員となります。連携施設の内科専門研修委員長は、基幹施設との連携のもと活動し、専攻医に関する情報を定期的に共有するために岐阜県総合医療センター内科専門研修管理委員会に出席し以下の報告を行います。

①前年度の診療実績

a)病院病床、b)内科病床数、c)内科診療科数、d)１か月あたり内科外来患者数、e)1か月あたり内科入院患者数、f)剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数

③前年度の学術活動

a)学会発表、b)論文発表

④施設状況

a)施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書室、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催

⑤以下の学会が認定する subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会、日本循環器学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、
日本腎臓病学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本神経学会、
日本アレルギー学会、日本リウマチ学会、日本感染症学会、日本救急医学会

2) 岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラムの評価と改善

(1)専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧でき、また集計結果に基づき、研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

(2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

・ 施設の内科専門研修委員会、プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、プログラム管理委員会が対応を検討します。なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

・ 担当指導医、施設の内科研修委員会、岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して研修プログラムを評価します。

・ 担当指導医、各施設の内科研修委員会、岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、プログラム内の自律的な改善に役立てるとともに、改善が難しい場合には、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れます。

(3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

サイトビジットは内科領域の専門医が互いに専門研修プログラムを形成的に評価し、自律的に改善努力を行うために必要です。専門研修プログラムを擁する岐阜県総合医療センターは、求めに応じて日本専門医機構内科領域研修委員会のサイトビジットを受けいれ、その評価を基に，必要に応じて岐阜県総合医療センター内科専門研修プログラムの改善を行います。

11. 指導医の研修計画

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を義務付けます。指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

別表1　各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 全ての疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約 提出数※5
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅱ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計		70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7) ※3
症例数		200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上	

※1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、 「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2　修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが 、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3　外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4　「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例) 「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5　初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表2　岐阜県総合医療センター内科専門研修　週間スケジュール（例）

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土・日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="5">モーニングカンファレンス（各Subspecialty診療科）</td><td rowspan="6">日当直

緊急呼び出し対応

担当患者の病態に応じた診療

学会・研修会参加</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">検査実施</td><td rowspan="2">外来診療</td><td rowspan="2">検査実施</td><td rowspan="2">外来診察</td></tr>
<tr><td>検査実施</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td></tr>
<tr><td>抄読会</td><td>CPC
（月に1回）</td></tr>
<tr><td>症例検討会
（各診療科）</td><td>外科とのカンファレンス</td><td>症例検討会
（各診療科）</td><td>内科合同カンファレンス</td><td>症例検討会
（各診療科）</td></tr>
<tr><td colspan="6">当直/緊急呼び出し対応/担当患者の病態に応じた診療</td></tr>
</table>

※基幹施設である岐阜県総合医療センターでの例です。
※ローテイトするSubspecialty診療科により、業務の内容や時間配分は変動します。
※平日の夜（不定期）に開催される地域医療機関参加型カンファレンスにも出席します。
※日当直では内科系疾患の症例を担当します。

1）専門研修基幹施設

岐阜県総合医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があり、24時間利用可能です。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は27名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025年度実績 3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうち全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024年度実績 8体，2025年度実績 6体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績 11回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実績 12

	回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表（2025年度実績7演題）をしています。
指導責任者	荒井正純 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜県総合医療センターは岐阜市を含む岐阜地区での唯一の救命救急センターを運営している病院であり、「断らない医療」をモットーとしています．1次救急から3次救急に及ぶ大変多くの救急症例を受け入れており、そのために幅広い領域で豊富な症例を経験することができます．また、岐阜県総合医療センターが認定されている医療機関群Ⅱ群施設は大学病院本院に準じた病院とされており、若手医師の教育を重要な責務としているのみならず岐阜県内の医療をリードする役割を担うため、他院では行えないような高度先進医療にも積極的に取り組んでいます．多くの指導医・先輩医師による分厚い指導体制も当院の特徴です．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27名，日本内科学会総合内科専門医 30名 日本消化器病学会消化器専門医 17名，日本循環器学会循環器専門医 15名， 日本内分泌学会専門医 3名、日本糖尿病学会専門医 5名， 日本腎臓病学会専門医 3名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 7名， 日本血液学会血液専門医 1名，日本神経学会神経内科専門医 4名， 日本リウマチ学会専門医 3名，日本感染症学会専門医 3名， 日本老年医学会専門医 1名，日本肝臓学会専門医 12名， 日本消化器内視鏡学会専門医 17名，日本臨床腫瘍学会専門医 2名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 12,275名（1ヶ月平均）　入院患者 517名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ・Ⅱ 日本腎臓学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本血液学会認定専門研修教育施設

	日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本病院総合診療医学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本気管食道科学会認定専門医研修施設 臨床遺伝専門医制度研修施設 など

2）専門研修連携施設

1. 岐阜大学医学部付属病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は49名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024年度実績 9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2024年度実績 日本内科学会11件、日本内科学会関連学会220件）をしています。
指導責任者	清水　雅仁 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜地域の『最後の砦』として当院のスタッフは一丸となって診療にあたっています。他の病院では経験できないような非常に難治性の疾患や他領域にまたがる複雑な疾患、稀少疾患など極めて多様性に富む症例を多数経験し、最先端の診断、治療を学ぶことができます。subspecialty領域の学会専門医も多数在籍しており、希望するsubspecialty領域の研修にも柔軟に対応できます。各種学会、研究会への参加、論文執筆などの学術活動にも積極的に取り組んで

	います。さらに基礎研究や臨床研究に携わる研究者や大学院生との交流を通じ、臨床医としてだけではなく、研究者としての科学的な目を養うことができます。Generalist、specialistとして研鑽を続ける、大学院に入学するなど今後どのようなキャリア形成を目指していくかにかかわらず、岐阜大学医学部附属病院での研修で得られた貴重な経験は必ず役に立つと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 49名，日本内科学会総合内科専門医 55名， 日本消化器病学会消化器専門医 26名，日本循環器学会循環器専門医 14名， 日本内分泌学会専門医 12名，日本糖尿病学会専門医 14名， 日本腎臓病学会専門医 3名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 7名， 日本血液学会血液専門医 6名，日本神経学会神経内科専門医 9名， 日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本リウマチ学会専門医 8名， 日本感染症学会専門医 0名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 8,767名（1ヶ月平均）　入院患者 4,599名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本甲状腺学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設

	日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2. 愛知医科大学病院

認定基準 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型相当大学病院です。 ·研修に必要な医学情報センター(図書館)があり，文献検索や電子ジャーナルの利用が 24 時間可能なインターネット環境が院内全体に整っています。 ·専攻医は，愛知医科大学病院　助教(専修医)として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント防止委員会が設置されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·臨床系女性教員の特別短時間勤務を実施しています。 ·敷地内に保育所『アイキッズ』があり，給食対応の実施を行っており，利用が可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	·内科指導医が 77 名在籍しています(下記)。 ·研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催(2025 年度実績 8 回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全てで定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 24 演題の学会発表(2025 年度実績 49 演題:専修医発表のみ)をしています。
指導責任者	氏名：伊藤　理 【専攻医へのメッセージ】 愛知医科大学病院内科は、消化管、肝胆膵、循環器、内分泌・代謝、糖尿病、腎臓・リウマチ膠原病、呼吸器・アレルギー、神経、血液の 9 診療科とプライマリーケアセンターを担当する総合診療科で構成されています。一般診療から高度な専門医療まで 74 名の指導医を中心に研修を行なっており、「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例は全て網羅することができます。専門医取得や大学院進学もシームレスに行うことができる環境です。学会発表はもちろん、

	臨床研究および基礎研究の双方を行う環境も整備されています。最新の設備と充実した指導医の下で、内科専門医の第一歩をスタートしましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 77 名，日本内科学会総合内科専門医 54 名 日本消化器病学会消化器専門医 25 名， 日本循環器学会循環器専門医 24 名， 日本内分泌学会専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 16 名， 日本腎臓病学会専門医 11 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名， 日本血液学会血液専門医 8 名， 日本神経学会神経内科専門医 16 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）6 名， 日本リウマチ学会専門医 5 名， 日本感染症学会専門医 3 名， 日本肝臓学会専門医 6 名， 日本臨床腫瘍学会専門医 2 名
JMECC 開催	2025 年度実績 1 回
外来・入院患者数	外来患者 57,870 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 25,065 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設

	日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

3. 岐阜市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·岐阜市正職員または非常勤嘱託員として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署(岐阜市役所職員厚生課)があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	·総合内科専門医が24名在籍しています（下記）。 ·内科専門研修プログラム管理部会（統括責任者（診療科部長）、統括副責任者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2026年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（市民公開講座；2025年度実績6回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2023年度15体，2024年度8体，2025年度15体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ·臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績12回）しています。 ·治験管理センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実

	績12回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表（2024年実績2演題）をしています.
指導責任者	杉山　昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜市民病院は、岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院であり、岐阜医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医/内科専門医30名，日本内科学会総合内科専門医24名，日本消化器病学会消化器専門医14名，日本循環器学会循環器専門医6名，日本内分泌学会専門医3名，日本糖尿病学会専門医4名，日本腎臓学会専門医3名，日本呼吸器学会呼吸器専門医5名，日本血液学会血液専門医11名，日本神経学会神経内科専門医2名，日本リウマチ学会専門医5名，日本肝臓学会専門医7名，日本救急医学会救急科専門医2名，日本老年医学会専門医2名　ほか
外来･入院 患者数	外来患者23,739名（1ヶ月平均）　入院患者15,175名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本糖尿病学会認定教育施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本内科学会認定医制度教育病院、日本リウマチ学会教育施設、日本東洋医学会研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会准教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本カプセル内視鏡学会認定指導施設、日本血液学会血液研修施設、日本輸血・細胞治療学会認定・臨床輸血看護師制度指定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設

4. 岐阜県厚生農業協同組合連合会　中濃厚生病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が院外に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室･更衣室･仮眠室･シャワー室･当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 2回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025年度実績 2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野の総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2025年度実績4演題）をしています。
指導責任者	白木　亮
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6名，日本内科学会総合内科専門医 15名,日本消化器病学会消化器専門医 10名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 8名,日本循環器学会循環器専門医 3名，日本糖尿病学会専門医 1名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名，日本血液学会血液専門医 1名，日本神経学会神経内科専門医 1名，日本肝臓病学会専門医 5名,日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1名,日本救急医学会救急科専門医 3名，ほか
外来･入院 患者数	外来患者 889.0名（1ヶ月平均）　入院患者 326.1名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、65疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡病学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本医学放射線学会専門医修練施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本病理学会研修登録施設 日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度認証施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 全国国民健康保険診療施設協議会地域包括医療・ケア認定施設

5. 高山赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室更衣室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は6名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 3回、医療安全 12回、感染対策 15回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス（2026年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025年度実績 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2025年度実績 25回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2025年度実績 4演題）をしています.
指導責任者	浮田雅人 【内科専攻医へのメッセージ】 地域医療の中心となる当院では、急性期から慢性期、そして在宅となるまでを一貫して主担当医として受け持つことができます. 週1回は外来を担当していただきますので外来にてひきつづき患者さんの治療を続けることができます. 循環器科以外は一つの内科として診療を行っているのでsubspecialtyの指導医の指導を受けつつも多疾患をもつ患者を総合的に診療できます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6名、日本内科学会総合内科専門医 6名 日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本肝臓学会専門医 3名 日本消化器内視鏡学会指導医 1名・専門医 2名 日本内分泌学会指導医 1名・専門医 1名、日本循環器内科学会専門医 2名

	日本糖尿病学会指導医 1名・専門医 1名、日本血液学会血液専門医 2名 日本救急医学会指導医 1名・専門医 1名
外来・入院 患者数	外来患者 13,193名（1ヶ月平均） 入院患者9,181名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、 日本肝臓学会認定施設、日本血液学会専門研修教育施設、 日本脳卒中学会研修教育病院、日本内科学会認定教育施設、 日本循環器科学会循環器専門医研修関連施設、 日本病院総合診療医学会認定施設

6. 岐阜県立下呂温泉病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室更衣室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医（常勤）は2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025年度実績 1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2025年度実績 0演題）をしています。
指導責任者	森田　浩之 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜県では唯一の山村にある県立病院で、2014年に新築移転されました。周囲に入院設備を有する病院が少ないため、下呂市およびその周辺地域の中核病院として幅広い領域にわたる多くの症例を受け入れています。県立下呂温泉病院では伝統的にリハビリやコメディカルが充実しており、他職種との協働のなかで多様な臨床場面での研修も可能です。患者層は超高齢者が多く、その意味では日本の未来を先取りした地域医療を実践・習得することが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2名，日本循環器学会循環器専門医 2名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 4,572名（1ヶ月平均）　入院患者 3,798名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基

技能	づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 など

7. 郡上市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 1回，医療安全 2回，感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急のほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2025年度実績 0演題）をしています。
指導責任者	畑佐匡紀 【内科専攻医へのメッセージ】 郡上市民病院は、山紫水明の町である郡上市八幡町内に位置し、東海北陸自動車道郡上八幡インターから車で約１分の所にあります。郡上市は、高山市に次いで広大な面積を有し、当院はその中核病院としての役割を担い、プライマリーケアを含めて多種の疾患の患者様を診させていただいています。自然あふれる環境の中での研修を体験してみませんか。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 2名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 1,908名（1ヶ月平均）　入院患者 940名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など

8. 市立恵那病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・コンプライアンス委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー・浴室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。（満１歳～３歳となる年度末まで）
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績 医療安全２回、感染対策２回）
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表 （2025年度実績0演題発表）
指導責任者	山田　誠史 【内科専攻医へのメッセージ】 恵那市の国保山岡診療所へは、当院から医師が派遣されていること、当院と共通する患者情報の連携ができていること、在宅医療が体験できる事、当院には、訪問看護ステーションが併設されていること、などなど、入院から在宅医療へ移行したとしても、主治医として続けて連続して診療できることが一つの特徴です。特に癌患者のターミナルケア、緩和ケアを経験できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医５名、日本内科学会総合内科専門医３名、 日本消化器病学会消化器専門医３名、日本循環器学会循環器専門医１名
外来･入院 患者数	外来患者　延 68,650 名、入院患者　延 42,985 名
経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術･技能を、地域の中核病院という枠組みのなかで、総合的に経験していただきます。

	健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 急性期を過ぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について。患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 褥瘡についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。 在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について。 地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群（６医療機関）の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本老年医学会教育研修施設 日本認知症学会教育施設 日本循環器学会研修関連施設 ＮＳＴ稼働認定施設（日本静脈経腸栄養学会）

9. 美濃市立美濃病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会において、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 2回，医療安全 2回（各複数回開催），感染対策 2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2025年度開催予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（美濃地区臨床研究会年6回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、血液および感染症を除く、総合内、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	内科系の学会集会あるいは同地方会の参加または発表等、学術研修活動を推奨支援しています。また研修に伴う費用の支援があります。
指導責任者	横家　正樹 【内科専攻医へのメッセージ】 美濃市立美濃病院は、中濃医療圏に位置し地域中核病院として急性期から回復・維持期（慢性期）までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの経時的な診断・治療の流れを通じて、地域医療・社会背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できます。
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会専門医 1名
外来・入院 患者数	内科（1か月実績）　外来患者：約2,430名　入院患者：80名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、40疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携、在宅医療なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会　専門医制度関連施設 日本地域医療学会　地域総合診療専門研修プログラム研修基幹施設

10. JA岐阜厚生連　岐阜・西濃医療センター　西濃厚生病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室・インターネット環境を整備しています。 ・西濃厚生病院医師として、就業環境等が保障されます。 ・メンタルストレス並びにコンプライアンスに適切に対応する部署（企画総務課）があります。 ・監査室・内部統制室が岐阜県厚生連本所に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は9名在籍しています。 ・研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全並びに感染対策研修会を定期的に開催（半期に一度）し、専攻医に受講を義務付けます。 ・定期的なカンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付けます。 ・CPC の開催時に、専攻医の受講を義務付けます。 ・定期的な地域との症例検討会等へ、専攻医に参加を義務付けます。
認定基準 3)診療経験の環境	内科領域13分野すべてを経験できますが、そのうちアレルギー、膠原病等一部の分野を除き、専門研修が可能な症例数を診療します。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会において、年間で計1演題以上の学会発表を行います。
指導責任者	足立　政治 【内科専攻医へのメッセージ】 揖斐厚生病院は西濃医療圏に位置し、西濃北部地域の中核病院として急性期・回復期・地域包括ケア、緩和ケア並びに予防医療（検診）までの基礎的、専門的な医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じ、社会的背景・療養環境調整をも包括する医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　9名，日本総合内科専門医　10名,日本消化器病学会消化器病指導医　3名，日本消化器内視鏡学会指導医　3名，日本肝臓病学会指導医　1名,日本血液学会専門医　1名,日本循環器学会循環器専門医　5名
外来・入院 患者数	外来患者 11,398.3名（R7年度1ヶ月平均） 入院患者　8,269.0名（R7年度1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	13領域の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医として必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く行います。
経験できる地域医	急性期医療に留まらず、がん患者の診断・治療、緩和ケア、終末期医療などを

療・診療連携	通じ、地域に根ざした医療や病診連携・病病連携等が経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医医研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設

11. 各務原リハビリテーション病院

認定基準 1)専攻医の環境	・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、内分泌、代謝、腎臓、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	磯野倫夫 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、療養病棟に加えて特殊疾患病棟や回復期リハビリテーション病棟を有し、いずれの病棟においてもポストアキュートや回復期の受入れを地域における役割として意識、注力しています. 専門医研修においても、地域で実際に提供されている医療展開と同様に、基幹病院との連携医療機関として、急性期医療から地域医療へと連続性を持った研修が可能です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 3名、日本糖尿病学会専門医 2名 日本神経学会専門医・指導医 1名、日本認知症学会専門医・指導医 1名
外来・入院 患者数	外来患者 1,216名（1ヶ月平均）　入院患者 3,087名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

12. 河村病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 3名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績　医療倫理 1回，医療安全 3回，感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、ほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績 2演題）をしています。
指導責任者	河村信利 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、「一般病棟」「療養病棟」「回復期リハビリテーション病棟」「障害者病棟」、さらに関連施設として「介護老人保健施設」「特別養護老人ホーム」等の介護保険施設も有し、急性期から慢性期までの患者の研修が可能です。また、「日本神経学会教育施設」「日本脳卒中学会認定研修教育病院」「日本認知症学会教育施設」でもあり、神経難病、脳血管障害、認知症等の神経疾患の診断・治療・研究にも力を注いでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3名，日本内科学会総合内科専門医 4名 日本神経学会神経内科専門医 4名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 2,175名（1ヶ月平均）　入院患者 8,558名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本神経学会認定教育施設 日本内科学会教育関連病院 日本認知症学会教育施設 など

13. 岐阜赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されております。 ・常勤医として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに関する相談窓口が整備されており、職員とは直接関係ないカウンセラーに相談が出来る環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室、宿直室が完備されております。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は4名在籍しています. ・研修委員会を設置して、指導医が施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会は定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催して、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。剖検数が少なく開催が困難な場合には、基幹施設や内科学会が企画するCPCの受講を促している。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025年度実績 12回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、特に11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会や同地方会にて年に1演題以上は学会発表をしております。
指導責任者	石森正敏 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜赤十字病院は岐阜医療圏に設置する「災害拠点病院」「地域医療支援病院」「第1種･第2種感染症指定医療機関」として急性期から在宅医療まで岐阜市北部を中心に地域医療を学べます。また、地域医療に必要な知識、技術の習得はもちろん、対応できる人材の育成に努めています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4名、日本内科学会総合内科専門医 7名、日本消化器病学会消化器専門医 4名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 1名･専門

	医 3名、日本循環器学会循環器専門医 2名、日本内分泌学会指導医 1名・専門医 1名、日本糖尿病学会指導医 1名・専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 1名、日本肝臓学会肝臓指導医 1名、日本血液学会血液指導医 1名、日本腎臓学会腎臓専門医 1名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10,576名（1ヶ月平均） 入院患者 5,363名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の12分野及び70疾患群
経験できる技術・技能	急性期医療だけでなく地域医療支援病院として、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を行い、入退院支援員と共にチーム医療が経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器内視鏡学会認定制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定病院 日本消化器がん検診学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本甲状腺学会専門医制度認定専門医施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本血液学会認定専門研修教育施設

14. 独立行政法人国立病院機構　長良医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は8名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 1回，医療安全 6回，感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025年度実績 0回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2025年度実績 12回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、循環器、呼吸器、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2025年度実績 2演題）をしています.
指導責任者	鮒　稔隆 【内科専攻医へのメッセージ】 呼吸器専門医療機関として、豊富な呼吸器疾患症例（1日平均55名の入院患者、平均50名／日の外来患者）により、一般的な呼吸器疾患から希少症例まで経験できます．また、アレルギーや感染症の分野においても呼吸器疾患を中心に経験できます．経験豊富な指導医が、呼吸管理、画像診断、気管支ファイバーなどの技能を指導します．またチーム医療（ICT、RST、緩和チーム）や終末期に関する意思決定などの患者さんと関わりも学ぶことができます．また循環器内科では、経験豊かな専門医より、丁寧な指導を受けられます．心臓カテーテル検査の手技や心臓リハビリテーションについて、実践的な研修が可能です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6名，日本内科学会総合内科専門医 5名 日本循環器学会循環器専門医 1名，

	日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名，日本感染症学会専門医 1名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 3,194名（1ヶ月平均） 入院患者 7,931名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 など

15.　下呂市立金山病院

認定基準 1)専攻医の環境	･協力型臨床研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･下呂市職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署(下呂市役所人事課)があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、専用の当直室、更衣室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･総合内科専門医が 2 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理部会（責任者（副院長）、と内科部長（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。 ･連携施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野の内、主に総合内科、内分泌、代謝、救急において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2020 年度実績 1 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2020年実績1演題）をしています。
指導責任者	木村　美香 【内科専攻医へのメッセージ】 下呂市立金山病院は，岐阜県飛騨医療圏の最南端に位置し、山間地域における急性期及び回復期を担う病院です。基幹施設の連携施設として内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医2名、日本内科学会総合内科専門医2名
外来･入院 患者数	外来患者2,590名（1ヶ月平均）、入院患者1,000名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	カリキュラムに示す内科領域13分野の内、主に総合内科、内分泌、代謝、救急。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	回復期医療を中心に急性期医療や超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

16.　松波総合病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室)があります。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、当直室が完備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24時間利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 31 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療科部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)）；専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹内施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2025年度実績 13回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2025年度開催施設にて開催実績1回：受講者6名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記） ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。（上記） ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績 48体、2024年度実績 45体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書コーナー、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2025 年度実績 3 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催(2025 年度実績 4 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2025年度実績5演題)をしています。
指導責任者	田上　真 【内科専攻医へのメッセージ】 松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経

	時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医6名、他
外来・入院 患者数	外来患者　13,916名（実数）　入院患者　9,968名（実数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く学ぶことが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験出来ます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会専門医研修基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導医施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌代謝学会内分泌代謝科認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本感染症学会連携研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本病院総合医学会認定施設 日本腎臓学会認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定 日本血液学会専門研修認定施設 日本肥満症学会肥満症専門医認定施設 日本膵臓学会認定指導施設　　など

17. 中部国際医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・社会医療法人厚生会 後期研修医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 21 名在籍しています（下記参照）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者（糖尿病センター長･内科部長、総合内科専門医かつ指導医）、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科代表）、連携施設担当委員、及び事務局代表者で構成されます。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績 18 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の研修会･カンファレンス（基幹施設：がん診療研修会、地域医療従事者研修会、中濃医学セミナー、地域連携パス研修会、可茂循環器セミナー、糖尿病オープン教室、中濃地区消化器カンファランス：2025 年実績 29 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を推奨し、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査の際には、臨床研修センターが対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年 4 体、2024 年 2 体、2023 年 3 体）を行っています。

認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、不定期に開催（2025 年実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、不定期に受託研究審査会を開催（2025 年実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年実績 3 演題）をしています。
指導責任者	髙見和久 【内科専攻医へのメッセージ】 木沢記念病院は、岐阜県中濃医療圏の中心的な急性期病院であり、中濃医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。極ありふれた Common disease から学会報告しうる稀で貴重な症例にいたるまで幅広く経験でき、無理なく専攻医として必修とされる症例を主担当医として受け持つことができます。 また多職種のスタッフが一丸となって専攻医のために研修をサポートする体制が備わっており、夢中で過ごした初期研修のあと、じっくりと内科学の研鑽、習熟するに最適な環境のもと内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 10 名　他
外来・入院患者数	外来患者：27,387 名（1 ヶ月平均）　入院患者 14,070 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域の内、概ね 60 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、福祉連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器科学会　循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本糖尿病学会　認定教育施設 日本消化器病学会　専門医制度認定施設 日本腎臓学会　研修施設 日本透析医学会　専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会　指定施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本臨床細胞学会　施設認定 日本肝臓学会　認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会 認定新家庭医療後期研修プログラム 日本病理学会　研修登録施設　など

18. 飛騨市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度内科研修プログラム連携施設です。 ・研修医室には研修に必要な図書・パソコン、インターネット環境（up to date、医中誌web、メディカルオンライン、今日の診療など）、個人机、冷蔵庫、ロッカーなどを整備しています。 ・病院より徒歩1分の場所に研修用宿舎を用意しています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は１名在籍しています。 ・研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・病棟では主治医として責任ある立場で症例を担当しつつも、チーム制で診断、治療等について朝、夕１日２回のカンファレンスでのきめ細かい指導、症例検討を行います。 ・救急外来および総合診療の一般外来も担当してもらいます。 ・週２回の勉強会において、持ち回りで発表を義務付けます。
認定基準 3)診療経験の環境	内科領域13分野すべてのプライマリ・ケアを経験できます。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会、研究会等において、年間で 1 演題以上の学会発表を行います。
指導責任者	工藤浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院では、内科医にとって必要なプライマリ・ケアにおける幅広い診療の知識を学ぶことが可能です。救急外来での急性期疾患のみならず、慢性疾患、緩和ケア、訪問診療、在宅看取りなど地域医療におけるオールラウンドな病院です。多くの研修医、学生も実習にきており、互いに教えあい、学びをえることで日々成長することができる病院です。
指導医数 （常勤医）	日本専門医機構総合診療指導医１名、特任指導医１名、 日本内科学会総合内科専門医１名、日本消化器病学会消化器病指導医１名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医２名、指導医１名。 日本プライマリ・ケア連合学会指導医２名、日本老年医学会指導医１名、 日本地域医療学会指導医２名
外来・入院 患者数	外来患者　4,583 名(1ヶ月平均)　入院患者　1,575 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	プライマリ・ケアの症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	総合診療医として必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	一般外来、救急診療に留まらず、緩和ケア、終末期医療、訪問診療などを通じ、地域に根ざした地域包括ケアや病診連携・病病連携等が経験出来ます。
学会認定施設 （内科系）	日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本地域医療学会地域総合診療専門医「専門研修プログラム」研修施設